

立山 山スキー合宿(2013年春合宿)

入山:2013年5月4日 7:00

小林(リーダー)、大曾根(晴男)、落合(気象予報士)、
久我(日サロ法律家)、渡邊(テント奉行)

	天気	最高気温	最低気温	風速
4日	曇りのち雪	5℃	-13℃	15 ^{メートル}
5日	晴れ	20℃	2℃	微弱
6日	晴れ時々曇り	15℃	2℃	10 ^{メートル}

天候は、概算です

■1日目

扇沢→室堂→雷鳥平で幕営→一の越→雷鳥平→雷鳥沢→雷鳥平

■2日目

雷鳥平→剣御前小屋→剣沢キャンプ場→剣御前小屋→別山→剣沢キャンプ場→剣御前小屋→雷鳥平

■3日目

雷鳥平→一の越→東一の越→大観峰→たんぼ沢尾根→黒部ダム

当初の計画

DAY1

6:00 扇沢駅

7:30 室堂

9:00 雷鳥沢
(幕営完了)

10:30 浄土山頂
ルート1滑走

12:00 雄山山頂
ルート2滑走(山崎カール)

13:00 テン場

14:30 雷鳥沢
ルート3滑走

15:00 テン場

DAY2

7:00 行動開始

8:00 剣御前小屋
ルート4滑走
10:30 平蔵谷を登る

12:00 カニのたてばいのコル
ルート5滑走(平蔵谷)

13:30 別山山頂
ルート6滑走

14:00 テン場

DAY3

7:30 行動開始

9:00 一の越し
たんぼ沢

12:00 黒部湖

13:00 扇沢

山行報告

■1日目

朝一のロープウェイに乗りたかったが、朝の準備に遅れ、扇沢7:00発のトロリーバスに乗りました。この日は、GW2日目ということなのか、天候悪化の予報の為なのか、そこまで混んではいりませんでした。

扇沢に着き、まずは、雷鳥平を目指す。2年前に行った記憶では、ここが一番、荷が重く、きつかった印象があるが、今回はそれほどでもなかった。しかし、ボードの二人(大曾根さん、久我さん)は、かつがなくては行けない部分が多く、もし自分だったら、大変だなと感じました。

テン場へ着くと、目印をして頂いていたおかげで、先発組(縦走組)のテントをすぐ探せた。用意をして、一の越を目指す。途中、縦走組と擦れちがう。どうやら、稜線の風が強すぎて、泣く泣く敗退してきたようだ。合流地点では、風はそこまで強くなかった。この晩の谷嶋さんのコメント「ベテランメンバーだけならいけたかも知れないが、自分が、身動き取れなくなるとパーティー全体が停滞してしまう可能性が強かった」この言葉の正しさを知るのは、2日目である。

縦走組に状況を聞き、我々は一の越を目指す。テン場から一の越へ近づくに連れ、風が強くなっていった。一の越の200^m手前くらいで、雄山山頂に雲がかかり、霧が深かったり、薄かったりと怪しい天気が続く。

一の越に着くと、稜線に上がった瞬間、激風であった。

少し可能性を待ちながら、メンバー間で相談。雄山頂上へは、アイゼンもないので、登る事は不可。中腹まで登る事は、可能かと思われたが、視界10^m以下、なおかつ雪が硬い可能性がある。滑る自信がないとのこともあり、一の越から雄山周りをトラバースして、山崎カール下部に行くルートを選択。別のパーティーもこの方法が多かった。

滑り出してみると、雪質はザラメで、硬くはなかったが、霧のため、滑っている感覚を失う。下へ滑っているのか、横へ滑っているのか、感覚が狂う。この場合、外腰の動かし方と脚の伸ばしを均等に行い、下へ滑っていることを感じながら滑る。斜面の変化があっても良い様に、足裏感覚を集中させて、変化があったら吸収する(コブ斜面を滑る感覚)

テン場まで、15分くらいかけてゆっくり滑る。テントに着いたら、縦走組はすでに酒盛り。我々はせっかくなので、雷鳥沢を滑ることにする。

疲れていたのと、登っている最中にだんだんテン場が見えなくなるほど、視界が悪くなっていたので、20分ほど登ったところで、滑り返して、1日目の行動は終了。



↑いつも笑顔の久我さん



キレイに張られた我々のテント。



1日目で、ワインが4^{リットル}空く。

■2日目

この日は朝から快晴。そして風も弱まっている最高の山スキー日和。朝から県警ヘリがホバリング。昨日、稜線で、200[㍓]の滑落事故が遭ったらしい。

まずは、雷鳥沢を登り、剣御前小屋を目指す。スキー組もシールでは登れない所もあり、少し担ぐことに。自分だけは、意地？で最後までシール登行。剣御前までは、2時間ほど。多少、時間がかかったかもしれない。

滑る前に、剣岳を見ながら、どこまで滑るか決める。予定では、平蔵谷の途中まで登り返し、滑る予定である。

まずは、剣沢のテン場まで滑る。広いバーンで、とても気持ちよい。

テン場に着くと、幕営されたテントが5張くらい。剣を今日、目指しているのだろうか、このとき、視界の先に、剣山荘が見えた。2年前、縦走組がこの距離を帰るのを止め、剣山荘に避難したのを思い出し、GWは、昨日の天気もそうだが、天候の急変には気をつけなくてはと再確認。

さて、メンバー間で相談し、ここから平蔵谷まで滑ると帰りの登り返しが大変になり、時間も危ういことから、ココで、剣御前に戻ることに決定。

戻るまでに、1時間くらいかかったと思われる。小屋で、1本とり、別山を登る。予定では、別山からテン場まで滑る予定であったが、視界が良かったこと、計画内のルートであったため、別山の稜線から、剣沢への滑降を決める。急斜面であったため、本人申告により、落合さん、渡邊さんは、歩いて剣御前小屋へ。我々の3人は、剣沢の中間まで滑降し、再び、剣沢を登り、剣御前で、2人とおちあう。

このときの斜面は、前日の天候のせいなのか、硬いバーンになっており、スキーのエッジが捕らえられない。結果、ここで、3人とも転ぶことになった。原因としては、3人とも、板を横にしてしまい、板が激しくばたついてしまったため。減速せずトラバースして、板が勝手に外れた(小林)、斜面変化で減速させる時にエッジが入らなかった(久我)、停止しようとして、板を横にしたとき(大曾根)

こういう雪は気をつけよう。



↑ 出発前の快晴の下で。



剣を目指し、滑る久我さん



剣をバックに・・・/小林



別山稜線/渡邊さん

■3日目

この日も、朝から快晴で、午後からは天候悪化する予報が出ていた。朝の準備もスムーズに出来、8時くらいに一の越へ着くことが出来た。東一の越へのルートが見つげづらいため、メンバー全員で、地図にてルート確認を行った。

一の越から狙いの尾根に沿ってトラバース(何本かトレースがあり、ルートの正しさを確認しながらゆっくり進む)

5年前に今回のルートを行こうとして、御山谷へ滑り込んでしまったことを思いながら、出きるだけ、谷へ落ち込まない様に滑る。雪面が凍り、風も強くなってきたので、1人ずつ、確実なトラバースをする。しかし、停止して2人目を呼ぶと、声が届かないことに気づく。そのため、短い距離で区切りながらトラバース。尾根の向こう側が見えなく、夏道への明確なトレースも見当たらず、私一人で、板を外し、ピッケルを持ち、尾根の向こう側を探索した。このとき、メンバーとは、50mくらい離れており、先行して探索の旨と、停止して待ってもらう事を伝えた。20mほど移動すると、尾根の向こう側が見えて、そのルートが間違っていたと気づく。そして、道具をデポした所に戻ろうとすると、戻れない。気づかない内にのぼり気味に戻ってしまい、戻るのに苦労する。20m戻ると、10分以上かかっていたと思われる。しかし、私の苦労なりに、事前打ち合わせから、狙うポイントがもっと上だと錯覚したメンバーが次々とこちらへ来た。失敗だった。結果、自分も最後の1歩で停滞してしまい、落合さんにスリングを伸ばしてもらい、なんとか、帰れた。ボードの二人は、下のほうに取り付き、登り始めている(30mくらいだが、声は届かない)。だいたい、3級くらいの登りになってしまい、テン泊装備、スキー、ボードを担いでここを登る事は不可能だと思い、落合さん、渡邊さんと相談し、御山谷で迂回して帰ろうと決める。ボードの二人にその意思を伝えるため、1人ずつ、御山谷へ滑る。久我さんは、取り付いた位置が若干良く、担ぎながらトラバース。大曾根さんは、気づいたら、身動き取れない状況になってしまっていた。我々が、下へ滑ったのを確認すると、ザックを谷へ落とす。最後に滑った私が辛うじて、大曾根さんの所までいけたので、ボードを預かり、下る。身軽になったので、大曾根さんはなんとか、下へ降りることが出来た。先行した落合さんが、トレースのしっかりついた東一の越を見つける。結果、こんなに下のルートであったのだ。地図読み不足。このあと、大曾根さんが下降すると、大曾根さんの荷物を私と渡邊さんで取りにいった。この騒ぎに費やした時間は、2時間だった。

無事に東一の越に着き、ロープウェイの架線が見える。この日のベーンに到着。稜線は、風が強いが、滑り込むと、風はほとんどなかった。日差しにより、雪質は湿雪の重い雪。最近起きたと思われるデブリもいくつかあった。けっしてスキー場ではありえない広大な長い一枚バーンをゆっくり滑り、田んぼ沢の上の尾根に入り、尾根沿いを滑り降りる。計画より1時間ほど遅れて、黒部ダムへ到着。

最後、ダムを渡りきった瞬間に雨が降り出したのが印象的であった。



大観峰から見上げる東一の越



デブリを見上げる



黒部ダムが見えた瞬間